

アートを取り入れた、 被服支廠の活用の方向性について

懇談会コア委員 積山ミサ

制作協力：日本STEAM教育振興会 理事 岩崎翔太

今回の内容

1.はじめに

2.事例報告Ⅰ アートによる国際交流（ギリシャ）

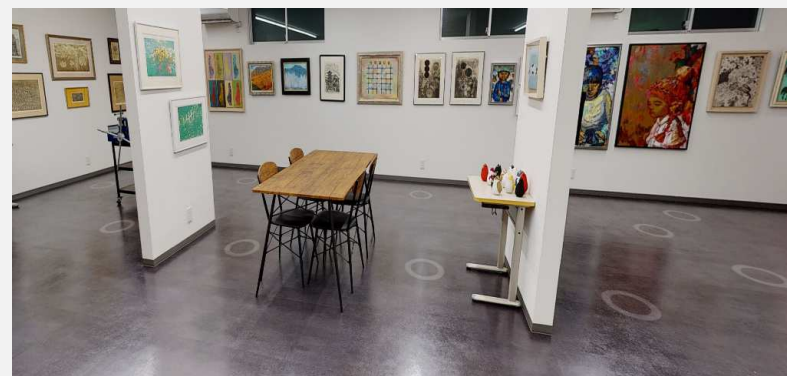
3.事例報告Ⅱ レジデンス（ポーランド）

4.被服支廠の活用の方向性

1.はじめに

- 2011年 レジデンス「6th International Plein-Air Painters Symposium」(ポーランド・スタリソフチ美術館)
→二週間の滞在制作
- 2019年 国際交流展「日本現代版画ギリシャ展」(ギリシャ・キプロス市立美術館)
→アートによる国際交流
- 2020年 グループ展「第2回アート広島展覧会」(広島・虹色ラボ)
→VRを活用した展覧会活動

VRを活用した展覧会



レジデンスについて

レジデンスとは...

正式にはアーティスト・イン・レジデンスといい、
アーティストが一定期間ある土地に滞在し、
普段とは異なる文化環境で作品制作やリサーチ活動を行うこと。

2.事例報告 I アートによる国際交流（ギリシャ）



ギリシャでの展覧会の様子①



ギリシャでの展覧会の様子②



ギリシャでの国際交流



Copyright © 日本STEAM教育振興会 All rights reserved.

ギリシャでの木版画ワークショップ



3.事例報告Ⅱ レジデンス（ポーランド）



レジデンスの様子①



レジデンスの様子②



レジデンスの様子③



スタリ・ソンチの小学校

所蔵作品



Copyright © 日本STEAM教育振興会 All rights reserved.

ワークショップの様子①





Copyright © 日本STEAM教育振興会 All rights reserved.

ワークショップの様子②



ワークショップの様子③



地元の生徒とチームを
組んでオブジェを制作、
町の広場に展示

夜に作品を燃やして、
キャンプファイヤー
で交流を深める

レセプションの様子



ポーランドの戦争体験

- 文化の破壊による表現の困難さ
- グラフィック（ポスター）による表現
- 作品を通して自由と平和への表現

アートによる文化の保存

歴史が失われたポーランドに
残ったもの

アートによる景観の復元

戦前の記憶の継承、
文化の連続性の確保



文化の連続性

被服支廠



原爆以前の記憶、文化が保存されている

4.被服支廠の活用の方向性

「世界中の人々が集まり、アートの創作と交流を通して、平和を発信しつづける場所」

①ジャンル複合的に、世界的アーティストが集まるラボ

→作品の制作と発表を通して、世界に平和を発信

②作品制作のワークショップによる、地域団体、生徒・学生との交流

→人々が集う場所の創出、平和体験の継承

③レジデンスによって制作された作品の収蔵

→文化の保存、連続性の確保

取り組みの方向性

- 世界的アーティストによるレジデンス
→被服支廠内の宿泊施設に滞在し、食をはじめとする広島文化を体験しながら、作品を制作・発表
- アーティストと地域の人たちの交流、被爆体験の継承
→ワークショップの実施、観光資源化
- SNS、VR等を活用し、上記を世界に発信